



2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社QDレーザ
2026年8月

2027年3月期第1四半期 決算説明に際して

株式会社QDレーザの2027年3月期 第1四半期 (2026年4月～2026年6月) の決算説明資料をお届けします。

当第1四半期は売上高 4.4億円、営業損失△0.5億円となり、前年同期比での増収増益となりました。まだ営業損失ではありますが、下期にかけて収益改善を見込む計画としており、当四半期も計画を上回る進捗となっております。受注残高も7.7億円まで積み上がっていることから、全社黒字化に向けた順調な滑り出しになったと考えています。

レーザデバイス事業は、DFBレーザをはじめ各製品の産業用途での受注が大きく伸びております。4月に行った新拠点への設備移転は順調に進んでおり、設備立上げのために当四半期は生産を止めておりました量子ドット製品は、第2四半期後半から生産を再開する予定です。

レーザ・オプティカルソリューション事業は、受託開発が着実に進んでいるほか、TDKとのXRグラス向け網膜投影ユニットの共同開発を6月から開始し、また関連知財の譲渡を7月に完了して特別利益を第2四半期に計上する予定です。

2027年3月期の目標である全社黒字化に向けて、両事業部とも順調なスタートとなりました。

引続き全社一丸となって取組みを進めて参ります。

今後ともQDレーザへのご支援をお願い申し上げます。

株式会社QDレーザ

代表取締役社長 大久保 潔

01 2027年3月期第1四半期 業績ハイライト

02 事業の説明

03 ガバナンス

04 会社概要

05 用語集

QDレーザ | 2027年3月期 Q1 決算

前年同期比で増収増益、安定した経営基盤の構築による成長を継続

売上高

営業利益

四半期利益

EBITDA^{*1}

全社

4.4億円

△0.5億円

△0.5億円

△0.2億円

前年同期比

+1.2億円 (+38%)

+0.5億円 (+50%)

+0.4億円 (+44%)

+0.4億円 (+66%)

レーザデバイス
事業部

(前年同期比)

3.7億円

(+0.7億円 (+23%))

0.9億円

(+0.3億円 (+43%))

• DFBレーザをはじめ産業用途の受注好調、量子ドットは設備立上げによりQ2から生産再開

レーザ・オプティカル
ソリューション事業部

(前年同期比)

0.7億円

(+0.5億円 (+297%))

△0.4億円

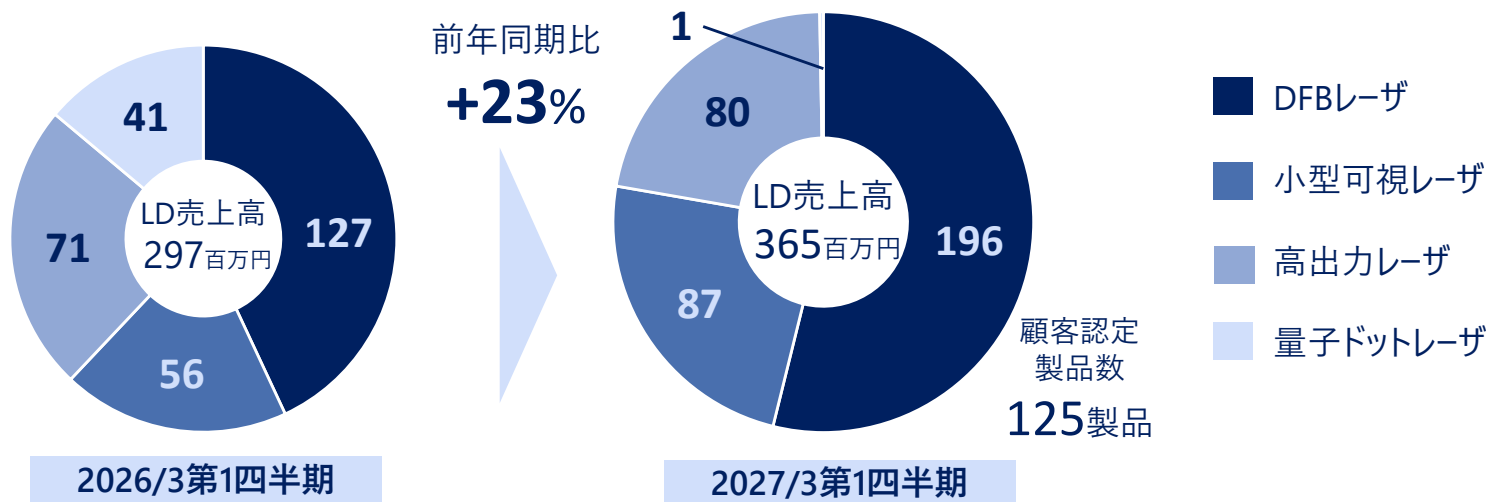
(+0.2億円 (+37%))

• 受託開発が順調に進捗、TDK向け知財譲渡を7月完了し第2四半期に特別利益計上予定

^{*1}: EBITDAは、営業活動によるキャッシュ創出力を示す参考指標として使用しており、営業利益に減価償却費等を加算して算出しています。

レーザデバイス(LD)事業部 | 安定した経営基盤の構築

DFBレーザをはじめとして産業用途で順調に売上を拡大



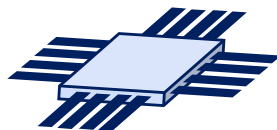
第1四半期の取組

- レーザデバイス全体の売上は前年同期比+23%の成長
- DFBレーザ、小型可視レーザ、高出力レーザの産業用途の受注好調
- 量子ドットは設備移転後の立上げの為に当四半期は生産を行っておらず、第2四半期後半から生産再開予定

レーザデバイス(LD)事業部 | 飛躍の追求

大手半導体メーカーなどへの量子ドット製品の量産採用に向けた取り組み

半導体光配線(CPO)の本格化、量子ドット製品の状況



■ 市場環境

- ✓ 大手半導体企業が主導する半導体光配線(CPO)の実用化・規格化が急速に進展
- ✓ 量子井戸レーザによる製品開発が先行

■ 量子ドットへの関心の高さ

- ✓ 顧客から量子ドット製品を継続して受注(R&D用途)

第1四半期の取り組み

- 製造設備(MBE)を新拠点に移転し立上げは順調に進捗、第2四半期後半から量子ドット製品の生産を再開

当社の対応（開発促進・体制強化）

データセンター向けの研究開発を進める顧客
グローバル大手半導体企業など

6社

■ 顧客ニーズへの対応

- ✓ 顧客の要望スペック製品の提供

■ 量子ドットの研究開発

- ✓ 高出力化、多波長化のR&D推進

■ 設備の増強

- ✓ MBE増設 (2026年度納入、2027年度稼働)

レーザ・オプティカルソリューション(LS)事業部：活動概要

網膜投影技術で培ったレーザと光学技術によるB2B事業を展開

スマートグラス

(XRグラス向け網膜投影光学ユニット)

- TDKとの網膜投影光学ユニットの共同開発を6月から開始 ※1
- TDKへの関連知財譲渡を7月に完了、特別利益を第2四半期に計上予定



実装例

光学モジュール・ユニット

(産業機器向け光学ユニットの提供)

- 3Dスキャニング、LiDAR、多波長モジュール等の光学ユニット、および顧客要求に応じたカスタマイズ製品など
- これらを顧客へ提案し受注開始



光学ユニット
(レーザ+MEMS)

ビジョンサポート

(網膜投影製品の開発・提供)

- スマートフォン装着型網膜投影機器RETISSA® VIEWCLEARの日本国内でのテストマーケティングを開始
- 網膜投影技術の医療応用の検討を推進



RETISSA® VIEWCLEAR™
(スマホアタッチメント型)

※ 2026年6月にTDK社と事業協力契約を締結

レーザー・オプティカルソリューション(LS)事業部：成長機会の拡大

TDK社とのXRグラス向け網膜投影光学ユニットの事業協力契約を締結（2026年6月）

QDレーザー

網膜投影技術

×

TDK

RGB光源モジュール
グローバル事業基盤

XRグラス向け次世代RGB光源モジュールおよび光学ユニットを共同開発

- QDレーザーの網膜投影技術とTDKのRGB光源モジュール技術を融合し、XRグラス向け次世代RGB光源モジュールおよび光学エンジンを共同開発
- 共同開発の継続による開発加速と、急成長するXRグラス市場への対応

特許の一部移転および人的交流

- QDレーザーの網膜投影技術に関連する特許の一部をTDKへの移転
- 将来の市場拡大に応じた中長期的なインセンティブを得るスキームを構築
- TDKとの人材交流を通じた技術醸成および量産体制構築支援

ビジョンサポート・ヘルスケア・医療などの取組み継続

- ユーザーのニーズに応える製品・サービスの継続提供
- RETISSA® VIEWCLEAR™のテストマーケティング開始（2026年5月）



網膜投影光学ユニットを搭載したXRグラス機器

01

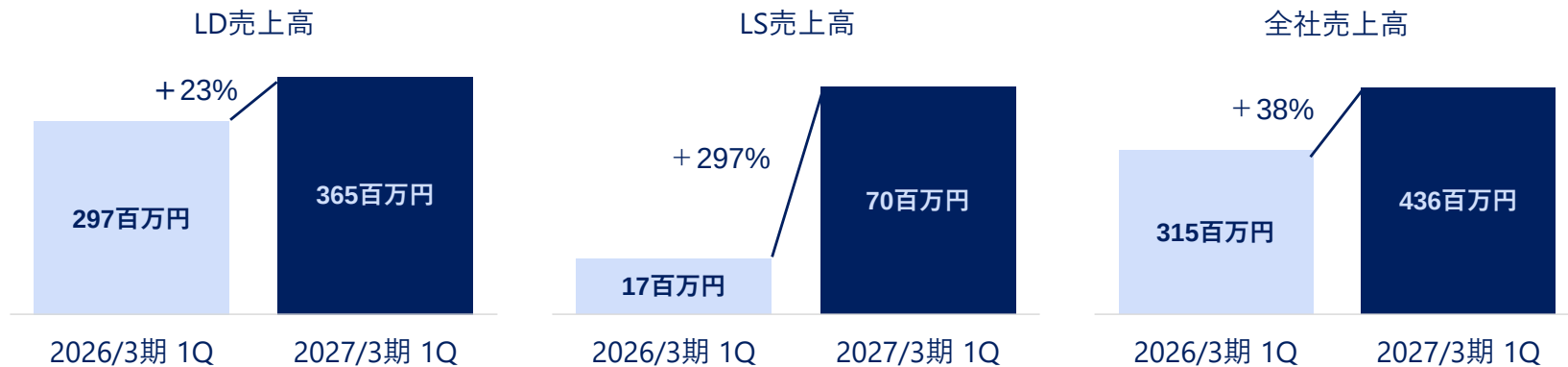
2026年3月期
業績ハイライト

2027年3月期第1四半期 業績ハイライト | 売上高

レーザデバイス(LD)事業売上高は前年同期比**23%増**の**365**百万円、レーザ・オプティカルソリューション(LS)事業売上高は前年同期比**297%増****70**百万円、全社売上高は前年同期比**38%増**の**436**百万円

LD事業売上高はDFBレーザ、小型可視レーザ及び高出力レーザが増加し、全体で23%の増加。量子ドットレーザは本社移転に伴いMBE設備を立上げ中のため売上が減少したもの。

LS事業売上高は開発受託が増加して297%の増加。



2027年3月期第1四半期 業績ハイライト | 損益

全社営業損失は前年同期比**45**百万円(50%)改善、LD事業営業利益は前年同期比**43%**増の**89**百万円

LD事業では売上高の増加により、営業利益は前年同期比**43%**増加の**89**百万円となった。

LS事業も売上高増加により営業損失が改善し、全社営業損失は前年同期比**45**百万円改善の△**45**百万円となった。



経常損失は前年同期比 **51**百万円(55%)改善、四半期純損失は前年同期比**41**百万円(44%)改善

経常損失は為替差益の発生により、前年同期比**51**百万円改善の△**41**百万円となった。

四半期純損失は会社移転関連費用等の特別損失計上により、前年同期比**41**百万円改善の△**51**百万円となった。



2027年3月期第1四半期 業績ハイライト

前年同期比で売上高増加、損失改善

売上高はLD事業で前年同期比23%の増加、LS事業で前年同期比297%の増加となり、全社では前年同期比38%増加となった。営業利益はLD事業では前年同期比43%増加の89百万円、LS事業では前年同期比21百万円改善の△36百万円となり、全社営業損失は前年同期比45百万円(50%)改善の△45百万円となった。

全社業績サマリー

(単位：百万円)	2027/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	前年同期比	2027/3期 ^{*1} 公表予想	対予想 進捗率
売上高	436	315	+38% (+121)	1,850	24%
(内、LD)	365	297	+23%	1,410	26%
(内、LS)	70	17	+297%	439	16%
営業利益 又は損失(△)	△45	△91	+45	3	-
(内、LD)	89	62	+27	298	-
(内、LS)	△36	△57	+21	3	-
経常利益 又は損失(△)	△41	△92	+51	3	-
四半期純利益 又は損失(△)	△51	△92	+41	441	-

*1：2026年6月1日公表値

製品群別売上サマリー

MBE装置移設でエピウ
工八生産停止中のため

(単位：百万円)	2027/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	前年同期比
DFBレーザ	196	127	+54%
小型可視レーザ	87	56	+54%
高出力レーザ	80	71	+12%
量子ドットレーザ	1	41	△96%
LD事業計	365	297	+23%
NRE	65	17	+271%
光学モジュール・ユニット	4	-	-
ビジョンサポート	1	-	-
LS事業計	70	17	+297%
合 計	436	315	+38%

2027年3月期第1四半期 貸借対照表

流動資産は未収入金や棚卸資産の増加等により106百万円の増加、固定資産はクリーンルームの取得等により334百万円の増加となり資産合計は441百万円の増加。

流動負債は未払金の増加等により62百万円の増加、固定負債は長期借入金の増加等により370百万円の増加となり負債合計は432百万円の増加。自己資本比率は81.5%^{*1}（前期末は87.9%）となった。

貸借対照表

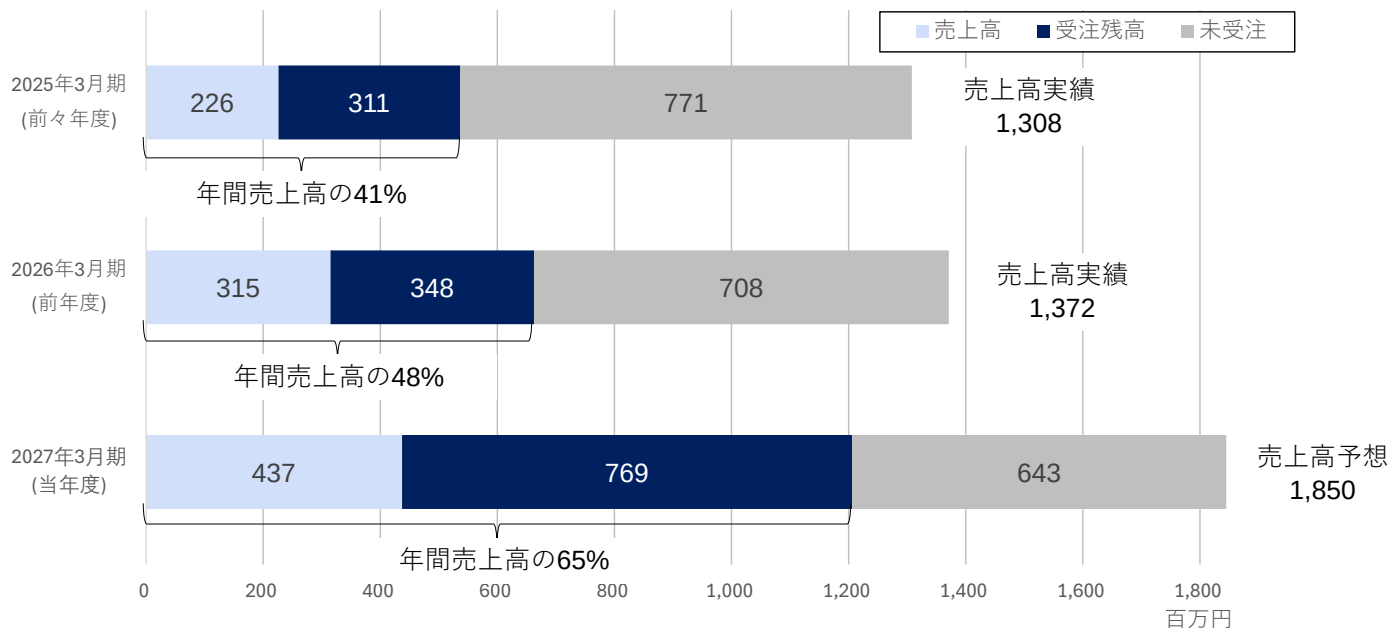
(百万円)	2026/6月末	2026/3月末	前期末比
流動資産	3,805	3,698	+106
固定資産	2,201	1,867	+334
資産合計	6,007	5,565	+441
流動負債	410	348	+62
固定負債	687	317	+370
負債合計	1,098	665	+432
純資産合計	4,908	4,900	+8
負債純資産合計	6,007	5,565	+441

*1：株式引受権13百万円を純資産から控除して算出

2027年3月期第1四半期 受注状況

第1四半期末時点で売上高＋受注残高は年間予想売上高の65%。過去と比較して高水準の進捗。

第1四半期末時点での年間売上高に対する売上高＋当年度売上予定受注残高



DFBレーザ^{*1}：売上高

2027年3月期第1四半期 売上高
196百万円 | 前年同期比 +54%

精密加工用および計測（センサシステム・半導体製造）用光源の受注好調。

精密加工

売上 構成比率

93百万円 | 48%

北米の微細加工用光源が好調で前年同期比**41百万円**の売上増加。

計測
(センサシステム)

50百万円 | 26%

米国のセンサ用光源の受注好調により前年同期比**13百万円**の売上増加。

医療

13百万円 | 7%

日本の医療関連機器用光源が堅調に推移。

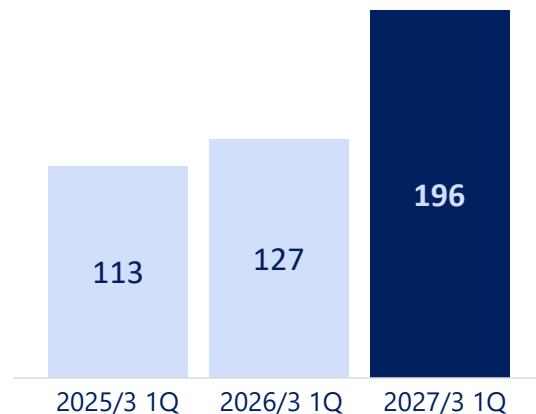
計測
(半導体製造用)

29百万円 | 15%

欧州の半導体検査用光源および日本の半導体ウエハプロセス関連の検査装置用光源が堅調に推移。

DFBレーザ売上高

(百万円)



*1：用途により便宜的に区分しており、一部FPレーザ等も含む

小型可視レーザ：売上高

2027年3月期第1四半期 売上高

87百万円 | 前年同期比 **+54%**

フローサイトメータ用光源の需要が増加。

売上

構成比率

血液・細胞
分析

(フローサイトメータ、セルソーダ)^{*1}

67百万円 | **78%**

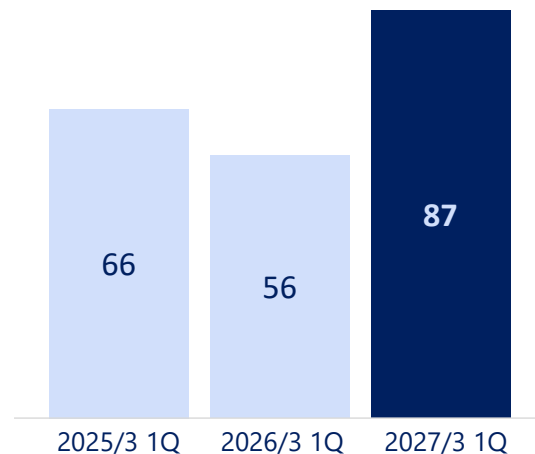
中国（本社米国）顧客の受注好調で前年同期比**20百万円**の売上増加。

顕微鏡

12百万円 | **14%**

日本顧客からの受注好調。
欧州顧客からの受注は低調。

小型可視レーザ売上高（百万円）



^{*1}：フローサイトメータの一種で、特定の細胞を分取する実験装置

高出力レーザ：売上高

2027年3月期第1四半期 売上高

80百万円 | 前年同期比 **+12%**

照明用およびマシンビジョン用光源の受注好調。

売上

構成比率

建設・DIY用
水準器・センサ

24百万円 | **31%**

中国の照明用光源の売上が好調。

半導体工場用
センサ

6百万円 | **9%**

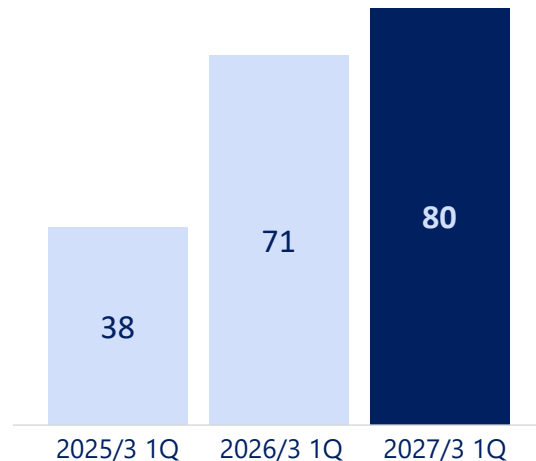
日本のウエハ搬送機用センサ光源の受注低調で前年同期比
12百万円の売上減少。

マシンビジョン・
工場内通信

22百万円 | **28%**

北米マシンビジョン用光源の受注好調で前年同期比**8百万円**
の**売上増加**。日本の工場用光源は堅調。

高出力レーザ売上高 (百万円)



量子ドットレーザ^{*1}：売上高

2027年3月期第1四半期 売上高
1百万円 | 前年同期比 ▲96%

本社移転に伴うMBE装置移設のためエピウエハ生産停止中。
9月に出荷再開予定。

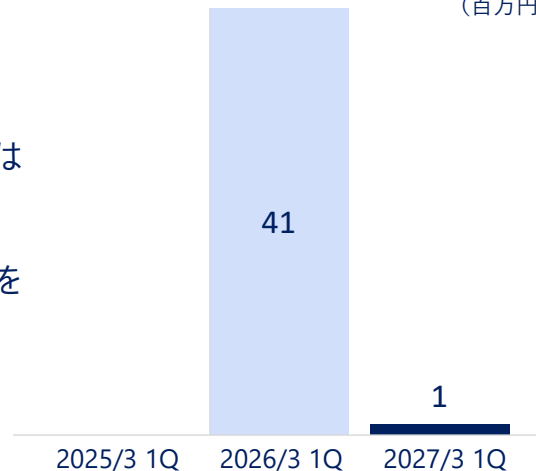
研究開発用 量子ドット製品

日米欧の9社とシリコンフォトニクス用光源等の共同開発を推進中
(光コネクタ・チップ間通信、LiDAR、民生用途等)。
当四半期は設備移転により生産を停止、第2四半期から生産再開予定。

当社顧客における研究開発・試作用途の量子ドットレーザ需要は、上下変動はありつつも、概ねこれまでの趨勢通り推移する見込み。

量子ドットレーザを組み込んだ最終製品については、当社顧客において量産化を目指した研究開発がさまざまに進捗。

量子ドットレーザ売上高 (百万円)



*1：用途により便宜的に区分しており、一部量子井戸レーザ等も含む

レーザ・オプティカルソリューション(LS)：売上高その他

2027年3月期第1四半期 売上高
71百万円 | 前年同期比 **+302%**

TDKと事業協力契約を締結し、XRグラス市場の成長・拡大へ対応を加速。

スマートグラス (XRグラス)

スマートグラス向けに当社網膜投影技術を用いた共同開発をTDKと継続実施中。
アイトラッキングやメタオプトの開発も実施中。

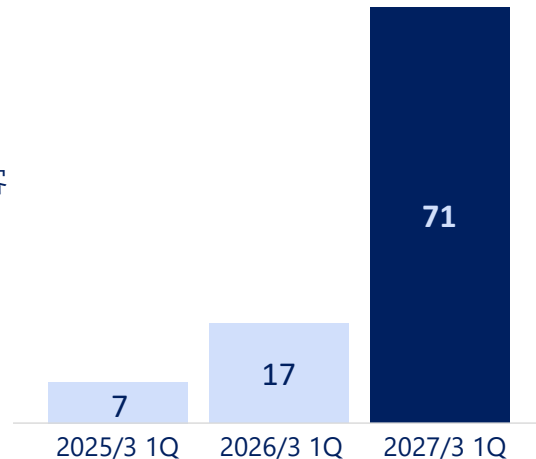
光学モジュール・ ユニット

コア部品であるRGBレーザやレンズユニットを顧客に供給中。
産業用途にレーザ + MEMSの光学ユニットや多波長モジュールを顧客へ提案中。複数社においてサンプル評価開始。
網膜投影技術を活用した新規アプリケーションの議論継続中。

ビジョンサポート

網膜投影技術を使ったスマートフォン装着型新規機器RETISSA® VIEWCLEARの日本でのテストマーケティング開始。2026年5月～7月末まで実施。
RETISSA ONHAND：代理店を通じて公共施設へ普及活動推進中。

LS売上高 (百万円)



QDレーザ：2027年3月期 事業計画

安定した経営基盤の構築と飛躍の追求を両立

レーザデバイス事業の継続成長、B2B型事業を核とするレーザ・オプティカルソリューション事業の収益安定化

	売上高	営業利益	当期利益	EBITDA
全社	18.5億円	+ 3百万円	+ 4.4億円	+ 1.1億円
前期比	+4.7億円 (+35%)	+3.3億円	+7.9億円	+3.4億円
レーザデバイス事業部	14.1億円	+2.9億円		
	- 売上と利益の安定成長の継続、生産設備立ち上げによる増産体制の構築 - 量子ドットの量産受注に向けた活動の加速(設備移転に伴い一部製品に短期の製造停止期間あり)、R&Dの推進			
レーザ・オプティカルソリューション事業部	4.3億円	+3百万円		
	- B2B型事業（光学・部品ビジネス）への構造転換・拡大によって事業部を営業黒字化 - XRグラス向け光学ユニットの共同開発の推進			

02

QDレーザの事業

QDレーザの2つの事業

光半導体分野のメジャープレイヤーを目指す

レーザデバイス(LD)事業部

加工
(精密加工分野など)

センサ
(半導体製造分野など)

バイオメディカル

量子ドット

- ・加工・センサ・通信用 最先端半導体レーザ
- ・シリコンフォトニクス用 量子ドットエピウエハ

レーザ・オプティカル ソリューション(LS)事業部

スマートグラス (XRグラス)

光学モジュール・ユニット

ビジョンサポート

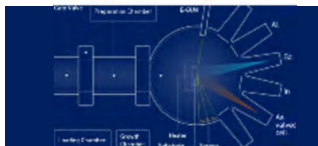
- ・網膜投影機器、医療機器
- ・産業用途向け光学モジュール・ユニット
- ・スマートグラス(XRグラス)の共同開発

QDレーザの強み：コアテクノロジー （当社の競争優位性・参入障壁）

材料・設計・制御・実装を組み合わせ、半導体レーザの応用

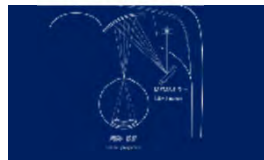
結晶成長・量子ドット

半導体結晶を原子層レベルで精密制御し
高温環境でも安定動作するレーザを実現



VISIRIUM®テクノロジー

網膜投影技術と光学設計を活かし、スマートグラス・
ビジョンサポート分野へ事業展開



レーザ・光学設計

波長制御・小型化・光学系設計を組み合わせ、用途別のレーザ・光学モジュールを開発

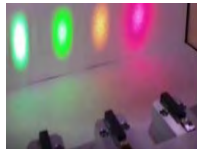
小型モジュール

レーザと周辺部品を小型ユニット化し
装置・機器への組込みに対応



波長制御（回折格子）

任意波長の精密制御により
用途別のレーザ開発に対応



光学モジュール・ユニット

レーザと光学系を組み合わせた光学
モジュール・ユニットを産業機器分野へ展開



QDレーザの強み：継続売上を生むB2Bビジネスモデル (当社の競争優位性・参入障壁)

顧客ニーズに応じた製品を提供し、継続した量産供給の関係を構築

顧客への提案

<Design>

顧客用途・ニーズに応じた
セミカスタム製品を提案

高付加価値化

顧客評価・採用検討

<Design-win>

顧客評価を通じて、顧客製
品への量産採用を目指す

他社との差別化

顧客の
量産
認定

量産・安定供給

<Mass Production>

顧客製品の量産に伴い、継
続的な供給を実現

継続売上基盤

主力製品群

レーザデバイス事業



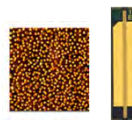
DFBLレーザ



小型可視レーザ



高出力レーザ



量子ドットレーザ
(顧客評価・量産採用検討)

レーザ・オプティカル ソリューション事業



スマートグラス用光学エンジン
(顧客評価・量産採用検討)



光学モジュール・ユニット



網膜投影・光学技術の医療応用

QDレーザの強み：セミファブレス生産体制 （当社の競争優位性・参入障壁）

重要工程を自社で担い、外部委託生産により少量多品種を製品化

重要工程を自社で担う

<Core Process>

結晶成長などの重要工程と品質確認を自社で担う

技術・品質担保

外部委託先を活用する

<Outsourcing>

加工・実装等は外部委託先を活用し、用途別の製品化に対応

設備負担抑制

波長・製品群を展開する

<Application Expansion>

可視～近赤外の各波長帯で製品群を展開し、産業・バイオ・情報処理分野に対応

多品種展開

波長・製品群別の用途対応例



03

ESGの取組

Sustainability

人類の「できる」を拡張する

レーザデバイス(LD)事業部

製造・検査の高度化

レーザ加工・検査

情報処理基盤の高度化

シリコンフォトニクス

レーザ・オプティカル ソリューション(LS)事業部

生活の質の向上

ビジョンサポート

産業・医療の高度化

センシング・診断

04

会社概要

会社概要

富士通研究所からのスピンオフ企業として設立
東証グロース市場上場企業（証券コード: 6613）

会社名	株式会社QDレーザ
設立	2006年4月24日
決算期	3月
代表者	代表取締役社長 大久保 潔
従業員数	50人 ^{*1} (2026年6月末時点)
所在地	本店：神奈川県横浜市戸塚区上倉田町206番地1 YTS：神奈川県横浜市戸塚区上倉田町481番地1 八恍ビル2F
事業内容	・レーザデバイス事業 ・通信・加工・センサ用 最先端半導体レーザの開発・製造・販売 ・シリコンフォトニクス用 量子ドットレーザの開発・製造・販売 ・レーザ・オプティカルソリューション事業 ・レーザ網膜投影技術の応用技術開発・製造・販売 ・「レーザ＋光学系」ユニットを活用した機器・部品の開発・製造・販売
業許可等	・第二種医療機器製造販売業 ・ISO9001

*1：派遣社員5名を含まない

事業・製品展開のあゆみ

レーザデバイス

量子ドットレーザ（1300nm等）

DFBレーザ（1064nm等）

高出力レーザ（660nm等）

小型可視レーザ（532nm等）

富士通研究所スピンオフ
ベンチャーとして設立

世界初の光通信用
量子ドットレーザ商品化

精密加工・センサ用
DFBレーザ製品化

水準器・センサ用
高出力レーザ製品化

バイオ検査等用途の
小型可視レーザ製品化

東京証券取引所
マザーズ市場に上場

光配線用量子ドット
レーザ量産開始

ドライバ内蔵ユニット
「Lantana®」販売開始

横浜市に移転

2006

2010

2011

2013

2018

2020

2021

2022

2023

2024

2025

2026

レーザ・オプティカルソリューション

民生用レーザ網膜投影機器
「RETISSA® DISPLAY」販売開始

眼のセルフチェック機器
「MEOCHECK NEO」の販売開始

「RETTISA® NEOVIEWER」
販売開始

スマートフォン装着型網膜投影機器
「RETTISA® VIEWCLEAR」
の市場検証開始

ビジョンサポート

スマートグラス

レーザ網膜走査型スマートグラス
共同研究開始

光学モジュール・ユニット

レーザ+MEMS、多波長モジュール
の光学ユニットの産業用途への展開開始

05

用語集

用語集

半導体レーザー	半導体に電流を流してレーザー発振させる長さ1mm程度の小型素子のこと。固体レーザー、ガスレーザーと比較して、超小型、数10GHzに達する高速変調特性、数10%の高い電力光変換効率、波長の制御性等の優れた性質を有している。1980年代に光通信用、CD/DVDなどの光記録用の光源として普及した。
量子ドットレーザー	量子ドットレーザー(Quantum Dot Laser)は、活性層に半導体のナノサイズの微結晶である量子ドット構造を採用した半導体レーザーのこと。既存の半導体レーザーと比較して温度安定性、高温耐性、低雑音性に優れるという特徴がある。
DFBレーザー	分布帰還型（Distributed Feedback：DFB）レーザーのことで、半導体レーザー内部に回折格子を設けて単一波長でレーザー発振することを可能としたレーザー。ファイバレーザーの種光のように狭い波長域に光出力を集中させる必要がある用途に適する。
シリコンフォトリクス	信号演算とメモリ機能を有するシリコン電子回路に光回路を混載する技術。電子回路システム処理能力の従来の限界を打破し（100倍の処理速度と低電力化を実現）、LSIチップ間の大容量伝送（10Tb/s）を可能とする。CPO (Co-Packaged Optics) が代表例。
VISIRIUM テクノロジー	光の三原色である赤・緑・青のレーザーを使って自在に色を作り出し、精密な光学系によって網膜に直接画像を投影する技術。
回折格子	半導体レーザーの波長を自由かつ精密に制御するためレーザー内部に形成する周期的な凹凸。
超短パルス	1つのパルスの幅（時間幅）が非常に短いレーザーのこと。熱影響による形状不整を防止することができ、微細加工等に用いられる。
小型可視レーザー	当社独自の半導体レーザーと波長変換素子を組合せて可視光（緑・黄緑・橙色）を発生させる小型モジュール。
網膜投影	網膜上に映像を投影すること。
フローサイトメータ	細胞の分析装置のこと。細胞の浮遊液や懸濁液を細管を通してレーザー光を照射し、蛍光や散乱光の測定によって細胞数とサイズの計測を短時間で多量に行う。分子生物学、病理学、免疫学、植物生物学、海洋生物学など各種分野にて応用されている。
LiDAR	LiDAR（Light Detection and Ranging）は、対象物にレーザー光を照射し、その反射光を光センサでとらえて距離を測定する技術。今後、自動車の自動運転分野への活用が期待されている。
メタオプト	微細構造を用いて光を制御する次世代光学技術のこと。XRグラスなどの小型・軽量な光学系への応用が期待されている。
MEMS	MEMS（Micro Electro Mechanical Systems）は、半導体加工技術を用いて作られる微小な機械構造のこと。網膜投影では、レーザー光を走査する小型ミラー等に用いられる。

本資料の取り扱いに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません